

この体験を通して伝えたい事  
 久慈中学校 一年 北島 <sup>きたじま</sup> かのん  
 私は「障害」について改めて深く考える出  
 来事がありました。それは、小学五年生の時  
 に授業の一環として行った福祉体験です。福  
 祉体験では、二つのことを自分自身で体験を  
 させてもらいました。  
 まず一つ目は、車いすに乗る人と押す人の  
 両方の体験です。これまで私は、車いすは、  
 簡単に乗れるものだと思っ  
 ていました。しかし、  
 し、車いすは、初めての人のだと折りたたまれ  
 ている車いすを開くことすら難しく、乗れた  
 としても、進んだ時の少しの揺れや歩いてい  
 る時とは違う低くなる視線に「ビクッ」とし  
 ました。特に、段差を越える時に車いすが、  
 見た目よりも傾きます。そこに、私は、恐怖  
 を抱きました。それから、車いすを押す側  
 も体験しました。私は、初めて、人が乗った  
 車いすを押しました。自分が思っ  
 ていた以上に、  
 にかが必要なことに驚きました。特に段差で

す。段差を越える時に押す力がとても必要な  
のです。自分で車いすの車輪を動かして、段  
差を越えるということは、とても無理だと思  
いました。  
二つ目の体験は、目が見えない人の体験で  
す。まず、アイマスクで目をかくしました。  
つけてみると、真っ暗になりました。少し恐怖を感じま  
した。その状態で歩くときは、白杖を  
持ち、一人に支えてもらいながら少しの距離  
を歩きました。目が見えない人でも、白杖が  
あることで、障害物などに気付くことができ  
ます。でも、自分だけなら怖くて越えたり  
進んだりできないと思います。特に、足場  
が見えないので、白杖は、目が見えない人  
にとって大切な道具だと思いました。  
この体験を通して、「障害」がある人に対  
して、格差や差別があつてはいけません。強  
く感じました。しかし、まだこの世界には、格  
差や差別があり、たくさん苦しんでいる人が

いると思うので、それは、身近なところから、  
無くしていったら良いと思います。  
そのためには、自分も改めて見直さなければ  
ばいけないうちがあると思うので、気を付け  
ていきたく思います。また、「障害」関係  
なく、楽しんで生活ができる環境づくりにも  
目を向けていきたく思います。  
普段、身近にあるバリアフリーが、この体  
験を通して、すごく大切だと感じました。例  
えば、スロープは、車いすの人などが登りや  
すりずらうに設置されていきます。このようにエ  
夫されている一方、私は歩道が狭かったり  
など、工夫が足りていないところがあるの  
で、歩道を拡張したり、カーブレールをつけ  
るなどの事ができていくが見直した方が良  
いと思います。また、点字ブロックは、駅  
のホームなどにも多いところがあるのでも  
っと身近な場所にも点字ブロックがある  
と良いと思います。このように工夫も含  
めて、これからは良いです。